【生活科教科研（２学期)】

令和３年 10 月 25 日（月）第３校時　１Ａ教室

授業者　植田　優

つながり，知的な深まりを楽しむ子どもが育つ授業づくり（３年次）
～子どもが友達の表現に「価値」を見出すことができるようにするための教師の働きかけを通して～

生活科における「つながり，知的な深まりを楽しむ子どもが育つ授業」について

生活科の目標は，今回の改定で幼児期とのつながりや小学校低学年における各教科における学習との関係性，中学年以降の学習とのつながりも踏まえ，具体的な活動や体験を通して「身近な生活に関する見方・考え方」を生かし，自立し生活を豊かにしていくための資質・能力を育成することが必要であると示されている。

生活科における見方・考え方とは，身近な生活に関わる見方・考え方であり，それは身近な人々，社会及び自然を自分との関わりの中で捉え,よりよい生活に向けて思いや願いを実現しようとすることであると考えられる。そこで,「思考」や「表現」が一体的に繰り返し行われ，自立し生活を豊かにしていくための資質・能力が育成されることを示している。

自立し生活を豊かにしていくことは，生活科における究極の子どもの姿である。生活科では，学習上の自立，生活上の自立，精神的な自立という三つの自立への基礎を養うことを目指している。これは，一人ひとりの児童が幼児期の教育で育まれたことを基礎にしながら，将来の自立に向けてその度合いを高めていくことを指す。生活科の学びを通して，実生活において自分でできることが増えたり，活動の範囲が広がったりして自分自身が成長すること，また，自分の成長とともに周囲との関わりやその多様性が増し，一つ一つの関わりが増すことが大切である。

生活科における「つながり，知的な深まりを楽しむ子どもが育つ授業」とは，子どもが「～したい」という思いを持って自ら学習対象と繰り返し関わる中で,「どうして〇〇なんだろう？」「〇〇してみよう」と思考したり，表現したりすることを通して，学習対象や自分自身への気付きの質が高まっていくことであると考える。そして，それぞれの気付きを実感し，その良さを友達と認め合ったり，振り返り捉え直したり，気付きと気付きを結び付けながら発展させてよりよいものを追求しようとし続けたりすることが知的な深まりを楽しむ姿であると考える。生活科では，友達の表現に「価値」を見出すために,思いの実現に向けた活動を通して，子どもが自分の学習状況に満足できるようにすることを大切にしている。心が満たされることで，自分以外の周りの人に目を向けることができるようになると考える。そのために，まず，子どもが思いや願いを持って活動できるよう，必然性のある学習活動を子どもとともに考える。その後，教師は子どもと一緒に活動したり，見守ったり，付き合ったりしながら子どもの思いに寄り添い，学習展開を考えていく。そうすることで，子どもは思いの実現に向けて夢中になって活動し,成功や失敗を何度も経験する。さらに，活動を繰り返したり，対象との関わりを深める活動や体験の充実を図ったりすることで気付きの質が高まるとともに，満足感や成就感につながっていく。この経験を重ねていくことで，新たな学習活動への意欲や自分の自信につながり，自分の学習の状況を自覚することができる。そうすることで，自分の状況において足りないものやよりよくするためのものを探そうとして，他者（友達）に目を向けることができるようになる。そこで，自分に必要な情報を友達の活動の様子を見たり，相談したりしながら見付けていくことで，友達の考えのよさに気付くことができると考える。このように，共通の目的のもと，思いの実現に向けてよりよいものを追求するために友達とつながり,知的な深まりを楽しむことができる授業を目指すことで，子ども一人ひとりが友達と一緒に学習を進めていくことの楽しさを味わうことができるようにする。以下に，子どもが友達の表現に「価値」を見出すことができるようにするための教師の働きかけについて述べる。

１．子どもを「共通の土台」にのせるための働きかけ

〇子どもの思いや願いを学習の出発点とする

生活科では，一人ひとりが思いや願いに沿った必然性のある学習活動を展開することが大切である。そのためには，まず，人，もの，ことなどの学習対象との出合わせ方を工夫する必要がある。「やってみたい」「知りたい」「できるようになりたい」など「～したい」と子どもの心が動き出すように学習対象と出合わせるようにする。本単元の導入では，？ボックスに入った秋の物を当てる活動を行う。子どもたちは，箱をゆすって音を聞いたり，触って手触りを確かめたりする中で，「コトコト音がするね」「これはザラザラする」などと感じたことを表現しながら中身を予想するだろう。その後，箱の中の栗と梨を見た時に，「秋の食べ物だ」「秋ってどんなことができるかな？」などと学習への意欲的な発言が多く出てくると考える。そこで，子どもたちの中にある秋のイメージを出し合い，これからの学習活動を決めていくようにする。秋のイメージを広げたウェビングを見ながら，「秋って植物がいっぱいなんだね」「探しに行きたいな」という子どもの思いから，秋見つけへとつなげていくようにする。体全身を使って秋を感じながら，秋の植物や生き物を十分に観察したり，それらに触れ合ったりすることができる活動を行うことで，自然の不思議さや面白さ，美しさに気付かせていくようにする。また，夏から秋への変化に気付かせるとともに，「秋の物ってすごい」「秋の物で遊んでみたい」などの思いから学習活動を子どもと一緒に考えていく。そうすることで，思いや願いを実現するために子どもたちは活動に没頭するだろう。教師は子どもの思いや願いに寄り添いながら，課題解決への意欲を高めるとともに、思いの持続性につなげていくようにする。本時は，秋見つけで見付けたものをみんなに紹介し，そこから次の課題を決めていく時間である。前時では，秋見つけで「たくさんの秋の物を見付けたい」「見付けたものを紹介したい」という思いがもてるようにしていく。秋見つけの時には，子どもの気付きを価値付け，見付けたものを友達にも早く紹介したいという気持ちでいっぱいになるようにしておく。そうすることで，子どもたちが意欲的に活動し，見付けたものについて自分の気付きを伝えることができるようにしていく。

〇共通のゴールを明確にする

生活科では，思いや願いを実現するためにそれぞれが思い思いの活動を行っていく。そのため，全員が理解し，「〇〇したい」という思いがのった共通のゴールイメージを明確にしておくことが大切である。そのために，共通のゴールをキーワード化し，どのような状態がゴールを達成したことになるのかを全員がイメージできるようにして授業に入っていくようにする。本単元でも，子どもたちが中心となって，単元のゴールを話し合い，秋の学習で行う活動がイメージできるゴールを決めるようにする。自分たちでゴールを考える事で全員の思いがのったゴールとなり，早く実現したいという課題解決への意欲につながるだろう。また，全員がイメージできるキーワードにしておくことで，思考や活動がずれている時に，教師がゴールを全体で確認させて軌道修正をしたり，活動中に子ども同士で「秋の物で〇〇するんだよ」と教え合ったりすることもできると考える。本時も，授業の始めに全員で「見付けた秋の物を紹介する」という本時のゴールを確認し，目的意識をもたせた上で紹介する活動に入っていくようにする。その際，秋の物に対する自分の考えをもって活動に向かえるように，観察カードの気付きに赤線を入れて価値付けしたり，夏との様子を比較できる写真を掲示したりしておく。そうすることで，自分の考えをもって話し合いに参加できるようにする。また，終末にはこれからの学習活動について話し合いを行っていく。また，出てきた意見を板書に残すことで，自分の考えをもつことが難しい子でも選択肢の中から選ぶことができ，全員が自分の考えをもつことができるようにする。

２．子どもが友達の表現に「価値」を見出すことができるようにするための働きかけ

〇自分の活動に満足できるように試行錯誤できる時間と空間を設定する

生活科では，一人ひとりが自分の思い思いの活動を行う。その際，活動する時間と空間を十分に確保し，じっくりと思考しながら活動することができるようにする。体験を充実させることで学習対象への気付きが深まり，子どもの「表現したい」という思いにつながるようにする。また，教師が出る場面を必要最低限に減らし，活動を見守っていくようにする。このように，活動に没頭できる状況をつくるこ

とで，子どもの思考や活動に動きが生まれてくるとともに，自分の思いの実現に向かっているという満足感を味わうことができるようにする。自分の学習状況に満足したことで，周りの友達にも目を向けることができるようになり，友達の面白そうだと思う考えをまねしたり，一緒に活動したりするなどして活動が広がっていく。そこで，教師が「なんで〇〇さんのまねをしようと思ったの？」とまねをした理由を尋ねたり，「一緒に遊んでみてどうだった？」などと問いかけたりすることで友達の考えのよさを再度考え直すことができるようにする。気付きを言語化することで自分の思いの実現には友達の存在があることに気付かせるようにする。本時では，秋見つけで見付けた物を紹介する時間だが，前時の秋見つけの際に活動の充実に加え，気付きを深める言葉がけをしっかりと行い，本時に向かうことができるようにする。

〇伝え合う場をつくる

活動の途中で，全体に紹介したり，困り感を相談したりする時間をつくるようにする。その際，教師は本時のねらいを明確にもち，ねらいに沿った発言を価値付け，全体にその考えのよさを広めていくようにする。本時では，見付けたものを紹介する際に，夏との違いや秋のよさに着目した気付きが出たら，話を途中で止めて「〇〇くんの言いたいことの続き分かる？」などと気付きのよさを全体に広め，全員がそのよさに気付くことができるようにしていく。また，話を聞いている側の子の反応を見ながら，「どうして今え？って思った？」「〇〇くんは何か言いたそうだけど」などと友達の表現に何か反応を示す姿を見取り，問い返すことで，思考の広がりや深まりにつなげていく。子どもが自由に感じたことをつぶやいたり，友達に質問したりできる雰囲気をつくっていくようにする。その中で，教師は，全体に気付かせたいつぶやきを拾い，「なんでそう思ったの？」などと理由を問いかけることで，「夏は〇〇だったけど，秋は〇〇なっていたから」などと比較している発言を取り上げ，夏と秋のちがいを全体に気付かせていくようにする。また，「そうだったっけ？」などととぼけることで「そうで！」「〇〇やったやん」などと子どもの思考が動き出すような働きかけも必要に応じて行っていく。その後，秋の物が書かれた板書を見ながら，「秋の物っていっぱいだね」「早く〇〇したい」という子どもの思いが出てきたところで，これからの計画を立てていく。「どんなことができそうかな？」などと問いかけ，できそうなことを自由に出させていく。そのとき，秋の物の特徴を生かした発言を価値付けていくことで，秋の物を使ってできることが大切ということに気付かせていくようにする。一つに絞るのではなく，こんな活動ができそうだとイメージを広げてこれからの秋の学習への期待感を高めていくようにする。

〇キーワード「え」を使った振り返りを行う

授業を行う上で，振り返りの時間を十分に確保し，自分を見つめ直す時間を大切にする。これは，前時の振り返り（前時の授業の最後の状況）が本時の個人のめあてになると捉えているからである。生活科では，一人ひとりが思いや願いをもって活動していく。全体の課題だけでなく，個人でやるべきことを明確に持っておくことが主体的に学んでいくことにつながっていくと考える。そのため，振り返りを通して自分の学びにはものや友達，自分との関わりなど様々な関わりがあり，その中で自分の活動がどう変わったのかを自覚させることを大切にする。学びの変容を自覚することで，次の活動へ見通しを持つことができ，学びがつながっていくと考える。本単元では，Ａ組の「え」を共通のキーワードとして喜び，驚き，疑問などの気持ちを顔マークで表現させる。その顔マークを基にして，ペアで理由を話すことで自分の学習状況を振り返ることができるようにする。「え」という言葉は，自分だけでなく自分以外のものや友達に目を向けたり，気付いたりしたことで出てくる反応だと考える。理由を話すときも，「私は，始めは〇〇と思っていたけど，〇〇君が夏とちがうところを言っていてえっ？と思いました」など，うまく表現ができない子でも表現しやすいキーワードの言葉になると考える。また，この「え」での振り返りを継続していくことで，授業の中でもたくさんの「え」が生まれ，気付きの言葉として子どもたちに浸透していくと考える。

１年Ａ組生活科学習指導案

１．単元名　たのしいあきいっぱい　（東書　上）

２．指導観

本単元は，学習指導要領内容（５）「身近な自然を観察したり，季節や地域の行事に関わったりするなどの活動を通して，それらの違いや特徴を見付けることができ，自然の様子や四季の変化，季節によって生活の様子が変わることに気付くとともに，それらを取り入れ自分の生活を楽しくしようとする」（６）「身近な自然を利用したり，身近にある物を使ったりするなどして遊ぶ活動を通して，遊びや遊びに使う物を工夫してつくることができ，その面白さや自然の不思議さに気付くとともに，みんなと楽しみながら遊びを創り出そうとする」を受けている。児童が四季の変化を身体全体で感じながら，自然物を使ったおもちゃを工夫してつくることを通して，自然物でおもちゃをつくる面白さや自然の不思議さ，みんなで楽しく遊びを創り出すことを目指している。

指導にあたっては，身近な場所へ「秋見つけ」に行き，見付けてきた秋の素材を使って，その特徴を生かしながら様々な遊びを考え取り組む中で，秋と夏の違いや秋の自然物の不思議さに気付くことができると考える。また，つくったおもちゃを生かして，「１Ａあきのおもちゃランド」を開き，みんなでつくった秋のおもちゃで遊ぶ活動も取り入れていく。季節によって自分たちの遊びや生活の様子が変わることに気付き，自分が興味のある遊びを試したり，友達と比べたりする活動を繰り返すことで，さらに，深まる自分の思いや願いの実現に向けて，主体的に粘り強く取り組む力を育てていきたい。

第一次では，夏から秋の植物園の変化に気付いた児童の言葉から，ウェビングで秋のイメージを広げ，「秋見付け」につなげていくようにする。五感をしっかりと働かせ，秋を身体全体で感じさせ，夏と秋の違いや秋の植物や動物の様子などに気付かせていきたい。その後，木の葉や実などを使った遊びを紹介し合うことで，「見付けた秋の物で遊びたい，つくりたい。」などの思いをふくらませるようにしていく。

本時は，前時で見付けた秋の物をみんなに紹介する時間である。まず，前時の秋見付けで見付けたものを紹介したいという思いから，「見付けた秋の物を紹介しよう」という本時のゴールを全員で確認する。その後，見付けたものを紹介し合う。その際，夏との違いや秋のよさに着目した気付きが出たら，話を途中で止めて「〇〇くんの言いたいことの続き分かる？」などと気付きのよさを全体に広め，全員がそのよさに気付くことができるようにしていく。また，話を聞いている側の子の反応を見ながら，「どうして今え？って思った？」「〇〇くんは何か言いたそうだけど」などと友達の表現に何か反応を示す姿を見取り，問い返すことで，思考の広がりや深まりにつなげていく。子どもが自由に感じたことをつぶやいたり，友達に質問したりできる雰囲気をつくっていくようにする。出てきた気付きは，写真を使いながら整理して板書し，終末の次の学習活動の話し合いへとつなげていくようにする。終末では，秋の物や気付きが書かれた板書を見ながら，「秋の物っていっぱいだね」「早く〇〇したい」という子どもの思いが出てきたところで，これからの計画を立てていく。「どんなことができそうかな？」などと問いかけ，できそうなことを自由に出させていく。その際，秋の物の特徴を生かした発言を価値付けていくことで，秋の物を使ってできることが大切ということに気付かせていくようにする。一つに絞るのではなく，こんな活動ができそうだとイメージを広げてこれからの秋の学習への期待感を高めていくようにする。振り返りでは，「え」を使ってその理由を振り返ることで，自分の状況を自覚させるとともに友達のよさに気付かせていくようにする。

第二次では，自ら集めてきた秋の素材をもとに，子どもたち一人ひとりの思いや願いを発展させ，遊びやおもちゃをつくることで，秋と関わる楽しさを感じさせる。自分の思いや考えを友達と比べ，何度も遊びを試すことで，秋の物の不思議さや面白さに気付かせていきたい。また，遊びやおもちゃをつくる際に，友達と共につくったり，遊んだり，助け合ったりすることで，自分や友達のアイデアのよさや工夫に気付き，友達と協力して自分たちの力で遊びを創り出したり，工夫したりする楽しさや面白さを実感できるようにする。試行錯誤する過程の中で，対話ができる場を多く取り入れ，児童同士の話し合いや交流，自分やものとの対話を通して，気付きを深めさせていくようにする

第三次では，「１Ａあきのおもちゃランド」を開き，みんなでつくった秋のおもちゃで遊ぶ活動を想定している。常に相手意識と目的意識をもち，目標に向けて活動が進むよう，ゴールイメージを視覚化して活動を行っていきたい。また，遊ぶ相手によって楽しく遊ぶことができるように遊び方を変えたり，遊びを共にする中で遊び方やルールなどを分かりやすく説明したりするなど，自分なりに工夫を行うことや友達と関わって活動することのよさや楽しさを実感できるようにする。

３．目標

秋の自然を見付けたり遊んだりする活動を通して，秋とその他の季節との違いや特徴を見付けたり，遊びや遊びに使う物を工夫してつくったりして，秋の自然の様子や夏から秋への変化，それを利用した遊びの面白さに気付くとともに，季節の変化を取り入れ自分の生活を楽しくしたり，みんなと楽しみながら遊びを創り出そうとしたりすることができるようになる。

４．単元の評価規準

		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元の評価規準		秋の自然と関わる活動を通して，自然の様子や四季の変化，季節によって生活の様子が変わること，遊びや遊びに使う物を工夫してつくることの面白さ，自然の不思議さに気付いている。	秋の自然と関わる活動を通して，身近な自然の違いや特徴を見付けたり，身近な自然を使って，遊びや遊びに使う物を工夫してつくったりしている。	秋の自然と関わる活動を通して，身近な自然を取り入れ，みんなと楽しみながら遊びを創り出し，自分の生活を楽しくしようとしている。
小単元における評価規準	1	①植物園や南庭の秋の自然の様子や特徴，夏から秋への移り変わりに気付いている。	①楽しみたい遊びを思い描きながら，植物園や南庭の秋の自然の中から遊びに使う物を工夫してつくったりしている。 ②五感を生かして，植物園や南庭の秋の自然に関わっている。	①秋の自然を楽しみたいという思いや願いをもって，植物園や南庭の秋の自然と繰り返し触れ合おうとしている。
	2	②植物園や南庭の秋の自然はいろいろな遊びに利用できることや，遊びを工夫したり遊びを創り出したりすることの面白さに気付いている。	③遊びの約束やルールなどを工夫しながら，遊んでいる。 ④比べたり，たとえたり，見通したりしながら，遊びを楽しんでいる。	②植物園や南庭の秋の自然の様子や特徴に応じながら，それらと関わろうとしている。
	3	③みんなで楽しく遊ぶ際，道具や用具の準備や片付け，掃除，整理整頓をしている。 ④遊びには約束やルールや大切なことやそれを守って遊ぶと楽しいことに気付いている。		③みんなで遊ぶと生活が楽しくなることを実感し，毎日の生活を豊かにしようとしている。

５．指導と評価の計画（全 21 時間）

小単元名 （時間）	学習活動	評価 規準	評価方法
１ あきのすてきをみつけよう （６）	・秋のイメージを広げる。 ・植物園や南庭で秋見つけをする。 ・秋について知っていることや保育園・幼稚園などで経験した遊びを出し合う。 ・植物園や南庭で秋見つけを繰り返し行ったり，気付いたことを自分なりの方法で表現したりする。	態① 思① 知① 思②	・行動観察，発言分析 ・発言分析 ・行動観察，発言分析 ・行動観察，発言分析
２ あきのたからものでおもちゃをつくろう （９）	・秋の自然を利用して遊ぶ。 ・秋の自然や身近にある物を利用して，遊びや遊びに使う物を工夫して作ったり，作った物を使って遊んだりする。	知② 思③ 思④ 態②	・行動観察，発言や振り返りの記述の分析 ・行動観察，発言や振り返りの記述の分析 ・行動観察，発言や表現物及び振り返りの記述の分析 ・行動観察，発言や表現物及び生活科カードの分析
３ １Ａあきのおもちゃランドをひらこう （６）	・「１Ａあきのおもちゃランド」を開いて，みんなで楽しく遊ぶ。 ・これまでの活動を振り返り，秋の思い出や秋の自然と自分との関わりなどについて，言葉や絵で表現したり，伝え合ったりする。	知③ 知④ 態③	・行動観察 ・行動観察，発言や振り返り及び表現物の分析 ・行動観察，発言や表現物及び生活科カードの分析

６．本時の指導について

(1) 目標

植物園や南庭で秋見つけを行う中で，自然の様子が夏から秋になって変化していることに気付き，それを友達に紹介することができる。

(2) 評価規準

知 身近な自然の様子が，夏から秋になって変化していることに気付いている。（発言，振り返り）

(3) 準備物

夏見つけの写真　秋の物の写真

(4) 本時の展開（5/21）

学習活動　・主な子どもの反応	○教師の働きかけ　□評価（方法）
1．学習の見通しを持つ ・秋見つけでいろんな秋を見付けた。 ・早くみんなに教えてあげたいな。 や あきのすてきをしょうかいしよう。	○見付けた秋を早く友達に紹介したいという子どもの思いをもとに本時のやってみようを提示する。 ○本時のゴールイメージを全員で確認し，活動の見通しをもたせる。
2．秋見つけで見付けた物を紹介し合う ・まつぼっくりを見付けたよ。 ・どんぐりを見付けたよ。前に行ったときは緑だったけど，茶色になっていたよ。 ・とんぼを見付けたよ。夏は水色だったけど，秋は赤色のとんぼだった。 ・それは，アキアカネだと思うよ。 ・風が涼しくて気持ちがよかった。 ・虫が減ったような気がする。 ・コオロギやすずむしの声が聞こえたよ。 ・落ち着く声だった。 ・茶色の葉っぱが増えていたよ。 ・枯れ葉を踏んだらカサカサ音がして面白かったよ。 ・秋って色々なものがあるね。 ・見付けた秋の物で何かできないかな？	○夏との違いや秋のよさに着目した気付きが出たら，話を途中で止めて「○○くんの言いたいこと分かる？」などと気付きのよさを全体に広め，全員がそのよさに気付くことができるようにしていく。 ○話を聞いている側の子が友達の表現に何か反応を示す姿を見取り，「どうして今え？って思った？」「○○くんは何か言いたそうだけど」などと問い返すことで，気付きの広がりや深まりにつなげていく。 ○子どもから出てきた気付きを写真と一緒に整理して板書し，子どもが思考する際に生かせるようにする。
3．これからの秋の学習の計画を立てる ・秋のものでおもちゃをつくって遊びたいな。 ・どんぐりでマラカスとかできそうだね。 ・教室を秋でいっぱいにしたいな。 ・どうやってしたら秋でいっぱいになるかな？ ・秋のものをいっぱい飾るとかはどうかな？ ・もっともっと秋のものがいりそうだね。 ・コオロギの鳴き声で音楽ができそう。 ・歌にしてもおもしろそうだね。	○教師が，受容的な反応を積極的にかえしていくことで，子どもが自由に感じたことをつぶやいたり，友達に質問したりできる雰囲気をつくっていくようにする。 ○秋の物の特徴などを生かした活動が出てきたら，「どうして○○ができそうと思った？」などと理由を聞き，秋の物の特徴を生かすことのよさに気付かせていくようにする。 知 身近な自然の様子が，夏から秋になって変化していることに気付いている。（発言，振り返り）
4．本時の学習を振り返る ・え！私は○○さんの葉っぱの色が変わっているっていうのを聞いてほんとだってびっくりした。 ・ぼくは，○○さんの教室で秋をいっぱいにするのが，えいな～と思ったよ。もっともっと秋の物を探さないといけないと思った。 ・え？私は，夏とこんなにいろんなことが変わっているが不思議だなと思った。 ・次の○○が楽しみだね。早くしたいな。	○Ａ組の「え」をキーワードとして，喜び，驚き，疑問などの気持ちを顔マークで表現させ，その理由をノートに書かせたり，友達に伝えさせたりすることで，自分の状況を自覚できるようにする。